

山口 徹

弘前大学人文学部 准教授

森鷗外小説作品に描かれた「古い」の分析と現代社会における教育的活用の研究

発表論文名： 森鷗外「ぢいさんばあさん」論 ―語りなおされた「舞姫」

本研究では、国語教科書の定番教材でありながら、自律したテキストとして読みとおすことが難しいとされてきた森鷗外「舞姫」（一八九〇）を、理想的な「古い」の姿が描かれているとされてきた歴史小説の佳篇「ぢいさんばあさん」（一九一五）との比較考察を行った。この研究の目的は、森鷗外小説作品の現代における教育的活用法を探るとともに、作品の精読によって豊かな高齢社会の基盤となる人間理解を探究することにあった。また、日本近現代文学研究において主要領域のひとつである森鷗外研究においても新機軸を示せるよう試みた。結果として、「舞姫」の二十五年後に書かれた「ぢいさんばあさん」には、男性主人公の挫折と女性主人公の妊娠をめぐる複数の重要モチーフや登場人物関係が踏襲されているが、異なる語りなどを採用することで、「舞姫」の主人公二人には開かれなかった可能的未来としての老後が描かれていることについて論じた。